

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名:魔りよくりーんJ

会社名:株式会社エヌジェイ

住 所:大阪市西成区出城2丁目4番5号

電話番号:06-6567-1760 FAX 番号:06-6567-1761

推 奨 用 途:産業機械及び周辺機器の洗浄、金属系脱脂洗浄剤、油処理剤、厨房機器の汚れ落とし、
フィルター洗浄、ステンレス磨き。

使用上の制限:アルミ製品、銅製品、真鍮、貴金属、宝石類、皮革類、水拭き出来ないものへの使用しないでください。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性		健康有害性	
火薬類	分類対象外	急性毒性 経口	区分外
可燃性・引火性ガス	分類対象外	経皮	区分外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	吸入(ガス)	区分外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外	吸入(蒸気)	区分外
高压ガス	分類対象外	吸入(粉塵)	区分外
引火性液体	分類対象外	吸入(ミスト)	区分外
可燃性固体	分類できない	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外	眼に対する重篤な損傷・ 眼刺激性	分類できない
自然発火性液体	分類対象外	呼吸器感作性	区分外
自然発火性固体	分類対象外	皮膚感作性	区分外
自己発熱性化学品	分類対象外	生殖細胞変異原性	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外	発がん性	区分外
酸化性液体	分類できない	生殖毒性	区分外
酸化性固体	分類対象外	特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	区分外
有機過酸化物	分類できない	特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	区分外
金属腐食性物質	分類できない	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境有害性			
水生環境有害性(急性)	区分外		
水生環境有害性(慢性)	区分外		

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル:無し

注意喚起語:無し

危険有害性情報:無し

注意書き:無し

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別:混合物

化学名又は一般名:

化学名	含有量(wt%)	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
炭酸水素ナトリウム	0~5 以下	NaHCO ₃ 食品添加物	1-164/1-310	144-55-8
アルカリビルダー	0~5 以下	— 食品添加物	—	—
特殊カルボン酸(キレート剤)	0~5 以下	— 食品添加物	—	—
水	91.5 以下	—	—	—

化学物質管理促進法:非該当

労働安全衛生法(通知対象物質):非該当

毒物劇物取締法:非該当

4. 応急処置

吸入した場合

被害者を空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断、処置を受ける。

皮膚に付着した場合

多量の水及び石鹼で洗い流す。

水疱、痛み等の症状が出た場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合

清浄な流水や水で最低 15 分間目を洗浄した後、眼科医の手当を受けること。

洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水が良く行きわたるように洗浄する。

コンタクトレンズを使用している場合は可能であれば取り除いて洗浄してください。

飲み込んだ場合

水で口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。

最も重要な徴候及び症状

知見無し

応急処置をする者の保護

救助者はゴム手袋等の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

不燃性で消火作用を有するため、消火方法は特に無いが、加熱により炭酸ガスを放出する恐れがあるため、消火作業を行う際は適切な保護具(手袋、保護眼鏡、防毒マスク等)を着用し消火する。消火作業は可能な限り風上から行う。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備などに散水して冷却する。消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行うこと。

6. 漏出時の措置

保護具及び緊急字措置:適切な保護具(手袋、保護眼鏡、防毒マスク等)を用いて、回収、排出作業を行うこと。

環境に対する注意事項:流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないよう注意する。

大量の水で希釈する場合は、排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する

封じ込め及び浄化方法:吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: —

局所排気・全体換気: —

注意事項:目に入らないように注意し取扱うこと。

安全取扱注意事項:製品に記載してある注意事項をよく守り取扱うこと。

保管

技術的対策:直射日光を避け、雨水のかからない換気の良い場所に保管する。

適切な保管:温度の上がらない場所に保管する。

強酸化剤、強酸と一緒に保管しない。

安全な容器・包装材:アルミニウム、錫、銅製の容器に保管しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策: —

保護具:目より高い場所に向けて使用する際は、保護眼鏡等を着用し、目に入らないよう使用すること。

衛生対策:保護眼鏡等の保護具は、使用前に点検を行ってから使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理状態、形状、色等):無色透明液体

臭い(臭いの閾値):無臭 pH:13.1

融点:知見無し 沸点:100℃

分解温度:100℃以上 燃焼性:知見無し 比重:ほぼ水と同じ

溶解性:水に可溶、エタノールに可溶

10. 安定性及び反応性

安定性:通常取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性:酸と反応して炭酸ガスを発生する。

100℃以上に熱すると分解をはじめ、200℃で二酸化炭素と水を失って炭酸塩となる。

アルミニウム、錫、銅等の両性金属と反応し水素ガスを発生する。

避けるべき条件:混蝕危険物質との接触

混食危険物:強酸化剤、強酸、アルミニウム、錫、銅等の両性金属

危険有害な分解生成物:一酸化炭素、二酸化炭素、水素ガス

11. 有害性情報

人によっては皮膚に付着すると肌荒れをおこす場合がある。眼に付着したまま放置すると炎症を起こす恐れがある。pH 13.1ではあるが、活性アルカリ度が低いため、腐食性が低い。

急性毒性(経口、経皮、吸引) :情報なし 発がん性(JARC、NTP、日本産業衛生学会) :情報なし

12. 環境影響情報

土壌の移動性:本製品の性質からみて水域、土壌環境に移動する可能性がある。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:多量の水にて希釈した後、排水基準の範囲内にて排出する。

或いは、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器・包装:空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に、都道府県の定めに従い処分する。

生物化学的酸素要求量(BOD):1.5mg/l(原液) 化学的酸素要求量(COD):18mg/l(原液)

14. 輸送上の注意

国際規制:該当法令無し。 国内規制:該当法令無し。 海洋汚染物質:非該当

輸送の特定の安全対策及び条件:取扱い及び保管上の注意の項の記載に従う。

輸送前に破損、漏れ等が無いことを確認すること。

転倒、落下、破損が無いように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。

吸湿防止のため、雨水等がかからないように注意すること。

15. 適用法令

該当法令なし

16. その他の情報

引用文献:特に無し

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上で御使用ください。